



「従来の測量では考えられない超密な地形図が作成できる」

3次元プレゼンテーションの表現力が、顧客満足度と企業ブランド力をさらに高める!!

名古屋市を拠点とする玉野総合コンサルタント株式会社様は、全国で道路・橋梁・河川・港湾・上下水道などの社会資本整備のコンサルティングと、土地区画整理事業を主とした都市開発事業で日本トップレベルの実績を持つ総合建設コンサルタント会社である。

同社では現在、古墳一帯の公園整備のための地形測量や現況測量などに、3次元レーザースキャナーGLS-1000を活用している。同社都市調査部次長の太田様は、「国土交通省の情報化施工の普及に向けての方針もあり、地上測量による3次元設計データの必要性が今後高まるであろうと考え、3次元レーザースキャナーの導入を決めました」と導入の経緯を語る。

同社では社内で技術発表会を行っており、そこでGLS-1000を発表したところ各部門から多数

の問い合わせがあり、社内の3次元に対する関心は非常に高まっているという。

このシステムのメリットについて、「地形の凹凸が超密な地形データとして再現され、PC上で十分確認できます。200分の1の縮尺で、しかも20cmコンタの地形図を描くことができました。これは従来の測量方法では不可能です。それに本体とPCが無線LANでつながるので、ケーブルを気にせずに使えるところも利点です」と太田様。また、現場責任者で都市調査部測量課係長の今井様は、「今まで表現しきれなかった細かい起伏などの形状を非常に鮮明に表現することができます。従来のノンプリズムトータルステーションではオーバーハングの地形では等高線が引けませんでした。スキャナーだとオーバーハングの様子もきちんと形状をとらえることが

できます。従来はお客様に写真を見せていたのですが、スキャナーで取ったデータをビューアソフトで見せることで現地に来ていただくなくても理解してもらえるようになりました。それに法面の現況を測定する場合は、非接触で計測できるので危険なところに近づかなくてもよくなりました」と表現力と安全性の向上をメリットに挙げる。

同社取締役執行役員の朝倉様は、「プレゼンテーションでは従来の2次元の写真ではなく3次元でお見せするとお客様の理解も深まり、かつ受けも良いです」と評価は上々とのこと。さらに朝倉様は、「ランドデザインや空間計画などで、従来表せなかった部分を表現できるメリットがある」と、スキャナーによる『見える化』技術が地域大手としての顧客満足度の向上、ブランド力の向上に役立っているという。

同社執行役員の榊原様は、「総合コンサルとしての付加価値を高める提案力向上という視点から、GLS-1000の斬新な活用方法を模索しています」と、先駆者ならではの決意を語った。



玉野総合コンサルタント株式会社
取締役執行役員 朝倉 恒夫 様(左) 執行役員 榊原 雅彦 様(右)



玉野総合コンサルタント株式会社
都市調査部 次長 太田 和哉 様(左) 係長 今井 忠彦 様(右)

ユーザー名：玉野総合コンサルタント株式会社
URL：http://www.tamano.co.jp/
使用機種：3次元レーザースキャナー GLS-1000